

Title 避難できたかな



この
おじいちゃん…

公園で
よく
見かける



僕と同じ
アパートに
住んで
いたんだ…

ひとり暮らし
なのかな？



ある日、
とんでもなく
激しい
大雨が降って

僕たちは
小学校の
体育館に
避難した。



モヤモヤ～

大丈夫かな…

気になって
探して
みたけれど、
避難所の
小学校には
あの
おじいちゃ
んの姿は
なかった…

Theme
01

ご近所さんのこと
知っていますか？



行動目標 4

ご近所の日常的な
コミュニケーションを促します

行動目標 6

市民の暮らしと命を守るための
備えを進めます

協働プロジェクトII

避難支援活動の実践支援と
庁内連携体制の構築

けん太くんは学校が終わると
公園で野球をして帰ります。
いつも公園のベンチに
座っているおじいちゃん。
ボールがおじいちゃんの近くに
転がっても気がつく様子もなく、
話したこともありません。

”
非常時に役立つ

日常からの

コミュニケーション

“

大規模な災害時には、公的な防災関係機関は交通や火災など、ライフラインへの対応が最優先となることから、発災直後の人命救助や初期の消火活動は、近隣住民の協力が大きな役割を果たすと言われています。

あいさつはお互いの存在を認め合うというメッセージであり、緊急時だけでなく、日常的な見守りや防犯などにもつながる大切なコミュニケーションです。
数値化できない日常的なつながりの価値や、何気ない雑談の意義が今見直されています。



日常のコミュニケーションを増やすために
何ができるだろう？

廿日市市の取組事例 避難行動要支援者 避難支援制度

東日本大震災では、加齢による避難行動の遅れや障がいによる避難情報の取得の遅れなどから、多くの高齢者や障がいのある人の尊い命が失われました。

このような現状を踏まえ、「70歳以上の一人暮らしの人」「介護保険の要介護3以上の人」などの理由により自分で避難することが難しく、かつ本人の同意を得られた場合、行政が作成する「避難行動要支援者名簿」に登録しています。

この名簿は、災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障がいのある人など（避難行動要支援者）が、災害情報の取得や避難などの手助けを地域の助け合いの中で素早く安全に行うことができることを目指したもので、平常時から避難支援等関係者（地域自治組織、民生委員など）に情報提供し、連携して災害に備えています。

こうした避難支援は、各地域で取り組まれているさまざまな事業や見守り活動を通じて培われる地域住民同士の関係性が生かされます。

市民一人ひとりで心がけること 身近な人たちと一緒にできること

- ・ご近所のあいさつ、会話や雑談で、生きがいや楽しみを聞いてみましょう
- ・ご近所の誘い合いを意識的に増やしましょう
- ・町内清掃に参加しましょう
- ・犬の散歩をしながらあいさつしてみましょう
- ・外出したくない人もいることを知り、自宅にいながらも、穏やかに健康的に過ごせるようなかわりを持ちましょう
- ・相手の本音を引き出せるようなご近所との関係をつくりましょう

地域全体で取り組むこと

» 地区・地域

- ・回覧板を活用した新たなコミュニケーションを工夫しましょう

行政が取り組むこと

- ・バス停、ゴミステーションなどの地域のさまざまな場所を活用して、気軽なコミュニケーションを促します